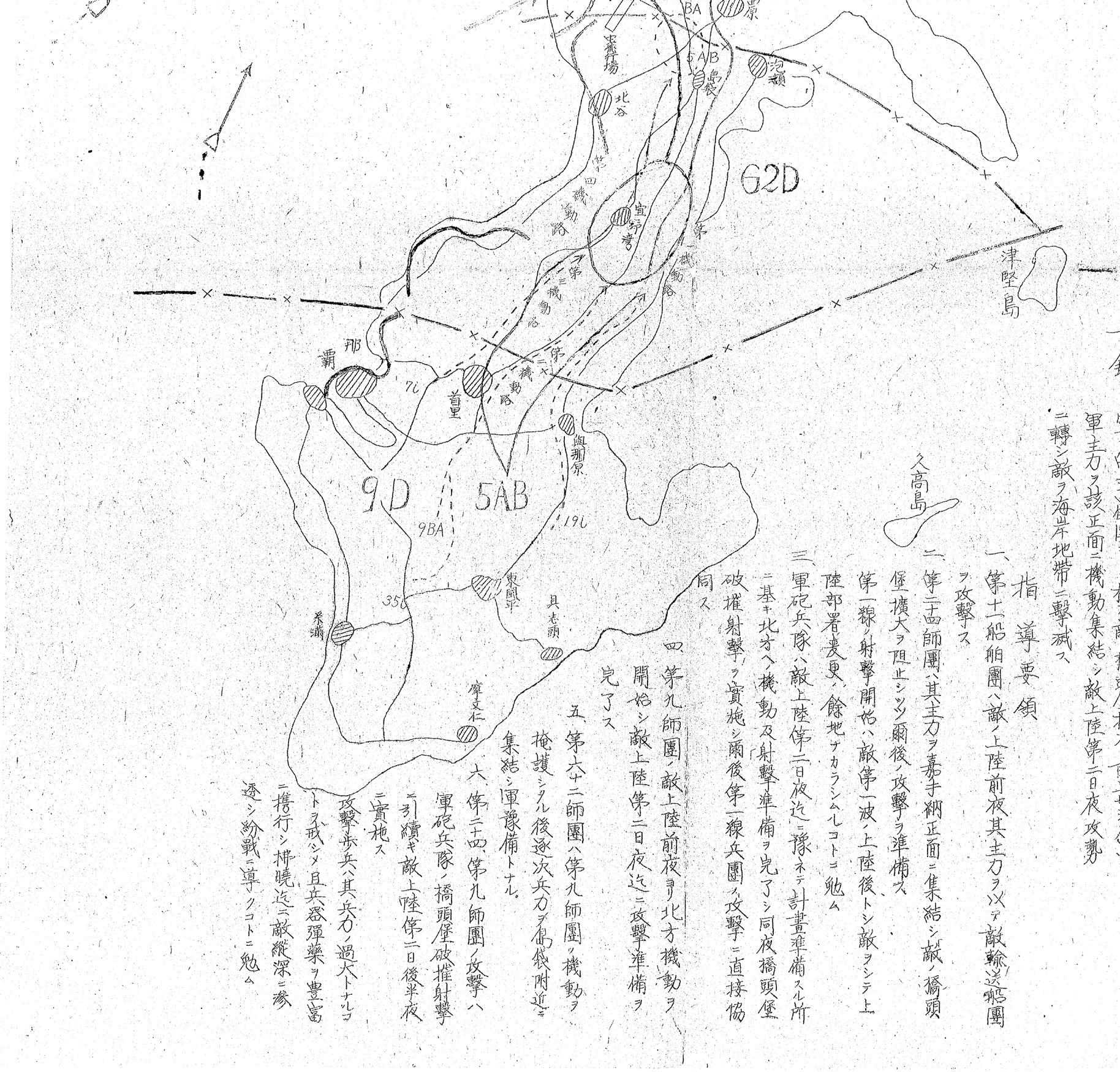


方針

一、第十船舶團ハ敵ノ上陸前夜其主力ヲ以テ敵輸送船團ヲ攻撃ス

二、第二十四師團ハ其主力ヲ嘉手納正面ニ集結シ敵ノ橋頭堡擴大ヲ阻止シツツ爾後攻撃ヲ準備ス

第一線ノ射撃開始ハ敵第一波ノ上陸後トシ敵ヲシテ上陸部署変更ノ餘地ナカラシムルコトニ勉ム

三、軍砲兵隊ハ敵上陸第二日夜迄ニ豫ネテ計畫準備スル所ニ基キ北方ヘ機動及射撃準備ヲ完了シ同夜橋頭堡破摧射撃ヲ實施シ爾後第一線兵團ノ攻撃ニ直接協同ス

四、第九師團ノ敵上陸前夜ヨリ北方機動ヲ開始シ敵上陸第二日夜迄ニ攻撃準備ヲ完了ス

五、第六十二師團ハ第九師團ノ機動ヲ掩護シタル後逐次兵力ヲ島尻附近ニ集結シ軍豫備トナル。

六、第二十四、第九師團ノ攻撃ハ軍砲兵隊ノ橋頭堡破摧射撃ニヲ續キ敵上陸第二日後半夜ニ實施ス

攻撃歩兵ハ其兵力ノ過大トナルヲトヲ戒シメ且兵器彈藥ヲ豊富ニ携行シ拂曉迄ニ敵縦深ニ滲透シ紛戰ニ導クコトニ勉ム

指導要領

一、第二十四師團ハ敵第一波ノ上陸後、第一線ノ射撃開始ハ敵第一波ノ上陸後トシ敵ヲシテ上陸部署変更ノ餘地ナカラシムルコトニ勉ム

二、軍砲兵隊ハ敵上陸第二日夜迄ニ豫ネテ計畫準備スル所ニ基キ北方ヘ機動及射撃準備ヲ完了シ同夜橋頭堡破摧射撃ヲ實施シ爾後第一線兵團ノ攻撃ニ直接協同ス

三、第九師團ノ敵上陸前夜ヨリ北方機動ヲ開始シ敵上陸第二日夜迄ニ攻撃準備ヲ完了ス

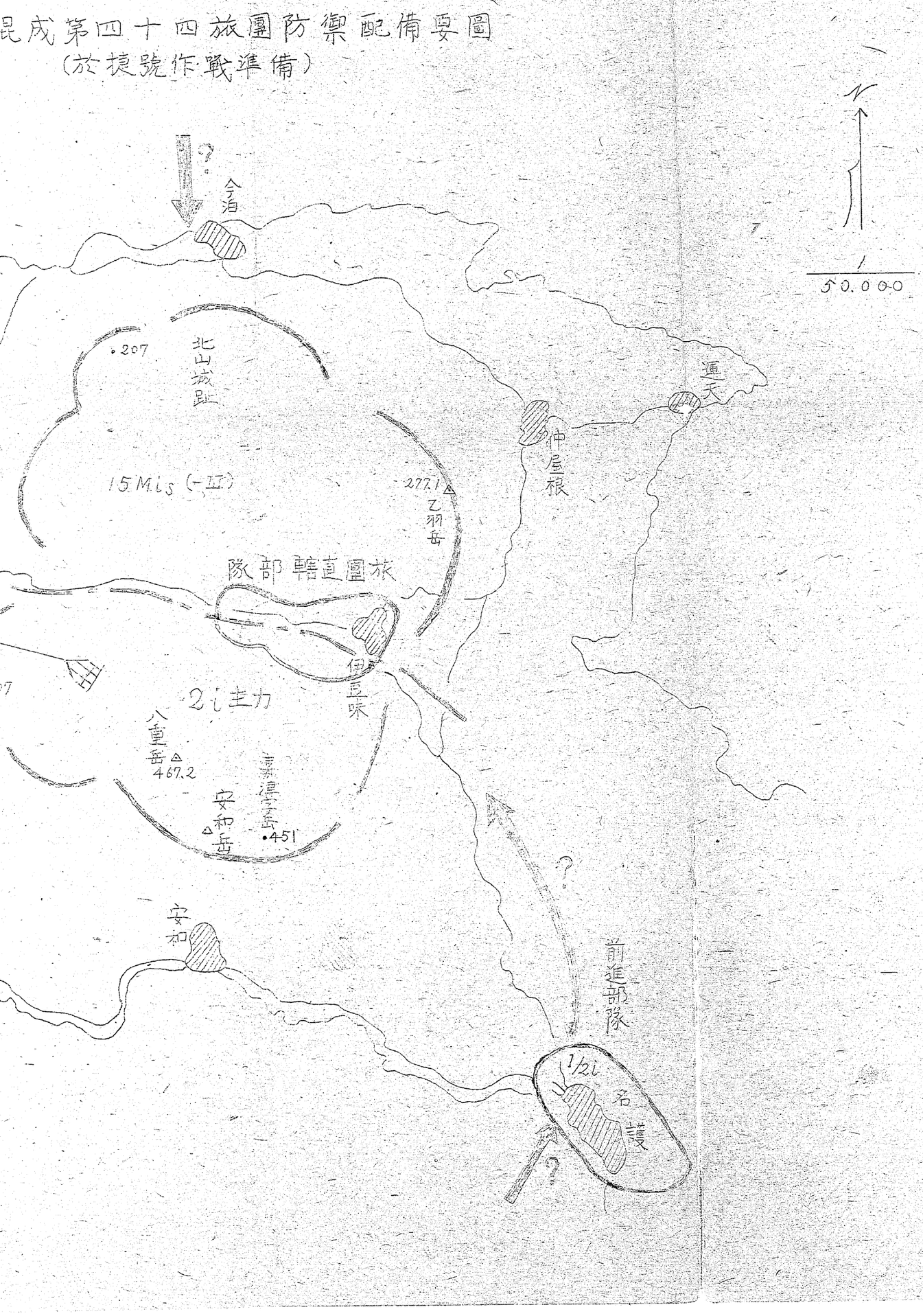
四、第六十二師團ハ第九師團ノ機動ヲ掩護シタル後逐次兵力ヲ島尻附近ニ集結シ軍豫備トナル。

五、第二十四、第九師團ノ攻撃ハ軍砲兵隊ノ橋頭堡破摧射撃ニヲ續キ敵上陸第二日後半夜ニ實施ス

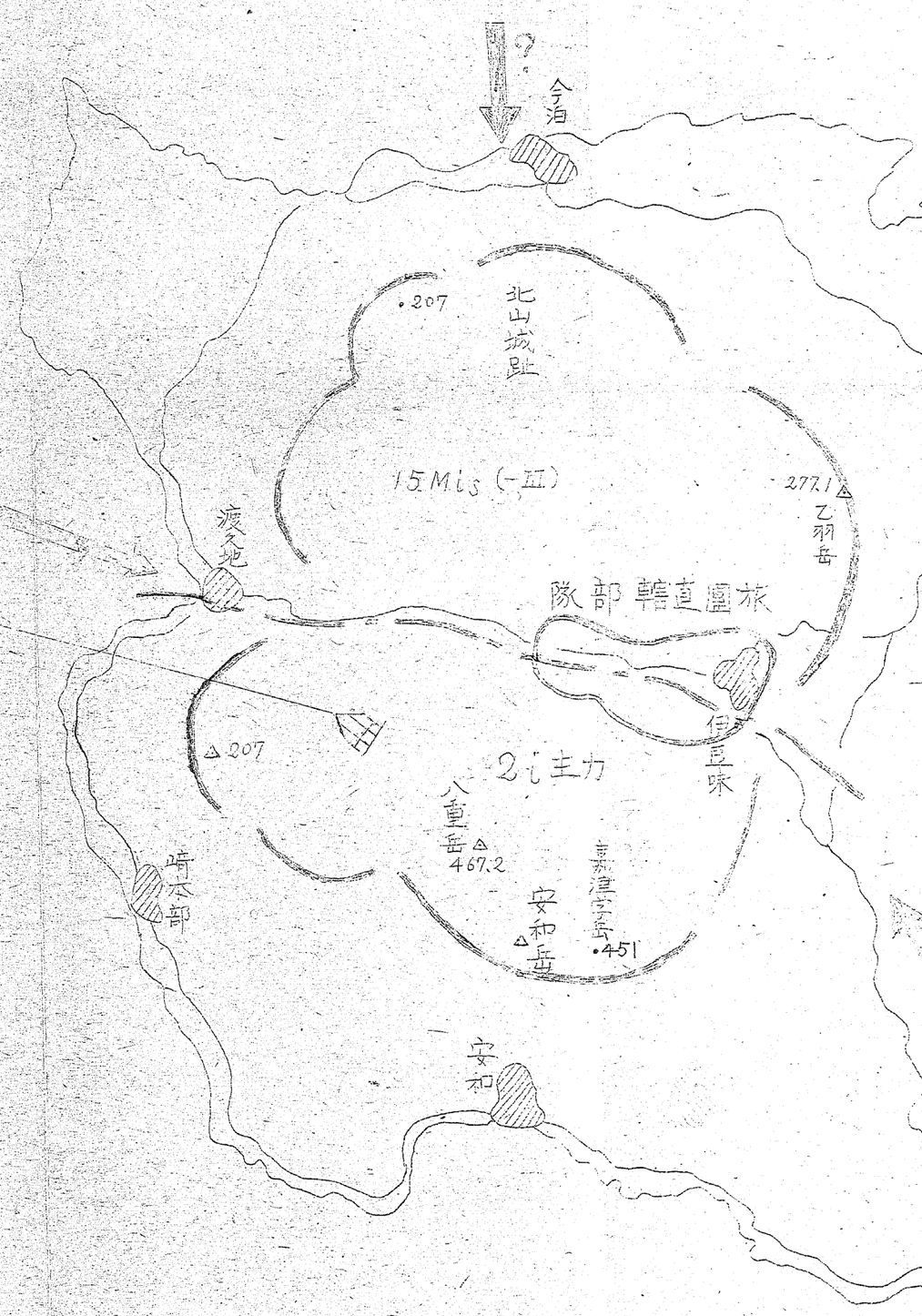
攻撃歩兵ハ其兵力ノ過大トナルヲトヲ戒シメ且兵器彈藥ヲ豊富ニ携行シ拂曉迄ニ敵縦深ニ滲透シ紛戰ニ導クコトニ勉ム

混成第四十四旅團防禦配備要圖
（於捷號作戰準備）

要圖第二（其ノ四）



獨立混成第四十四旅團防禦配備要圖
（於捷號作戰準備）



備考

一、混成旅團ノ本部半島占領ノ主目的ハ該地區ノ確保並ニ該地區ニ展開スル長射程砲ニ依リ敵ノ伊江島攻略ヲ妨害スルニ在リ

二、伊江島守備隊ノ配備ハ天號作戰ノ場合ト略ヽ同樣ナリ

三、旅團砲兵ノ配備ハ第一線部隊ノ各正面ニ豫メ陣地ヲ準備シ敵ノ進攻方向ニ應ジ機動的ニ使用セントスルニ在リ

本計畫の主眼とする點左の如し

イ、敵が沖縄本島に上陸する場合は五、六ケ師團乃至十ケ師團を使用するならん

ロ、右兵力は我が航空及海軍の攻撃に依り上陸前相當大なる損害を受くべく彼我地上戰力比は必ずしも有利とならざる公算あり

ハ、敵が海岸地帶狹少なる地域に上陸し其の海空軍の確實なる掩護下に爾後の攻撃の彈薬力を蓄積せんとする若干日一從來の戰例に依ゆ一の間とそ我の乘ずべき好機なり

ホ、我が有力なる砲兵一結集し得る砲兵力は中五糎級以上各種砲合計約百門、曳他數百門なり一を以て橋頭堡に蝟集する敵の兵員資材に鐵槌的打撃を加へ得べし

5、各兵團及主力他兵の集中機動は相當困難なるべきも夜間の利用、

交通網の整備並に猛訓練に依り又機動後の戦闘は該方面に擧前に準備せる洞窟陣地或に集積軍需品に依り共に實行可能の成算あり

6. 夜間機動の可能性を信じたる所以は敵の上陸が渡洋作戦的性質を帶び之に協力する敵空軍は全部艦載機なるが故に夜間の發著困難なると敵の艦砲射撃も夜間は正確ならざるべしとの判斷に基くものなり

7. 敵は日本軍式掛引きの妙より科學的正確を期する戦法に出づるを例とす從て一時に多方面に眞面目なる上陸を決行せざるべく我が軍の敵上陸點に對する兵力の徹底的集中攻撃可能の算大なり

8. 敵の大規模なる上陸準備砲爆撃に對しては我が兵員資材を洞窟内に收容することに依り其の損害は極減し得る見込あり

陸軍の作戦準備上の重要問題

第一期作戦準備間は航空の優先重點主義を嚴守せるも第二期に入り地上兵力の大規模増强に伴ひ此の問題は上下左右の間に絶えず論議

の對象となり我が航空が太平洋戦特に最近のマリアナ戦に於て其の弱体を暴露せる事實は軍首脳部をして航空に依る敵進攻撃粉砕及島嶼の飛行場の價値に關する期待度を高い低下せしめ之が意見を中央部にも連絡するに至れり

大本營の主任者間に於ても本問題に關する意思が必しも一致しあらざる點は微妙に第一線軍に反映し江藤曲折の後德之島第二、伊江島曲、沖縄南、同東、宮古原の各飛行場は設定一時中止となれるも其の反面軍隷下の各兵團は急を要する地上戦備を一擲し約一ヶ月間一九月一に亘り所在島嶼の飛行場建設に殆ど全力を傾注するが餘儀なくせしめられたり

第二期作戦準備間に於ける一般の狀況及敵情判斷

1. 大本營はマリアナ線失陥後第三T二等の戦備强化に大いに努力せしも敵がペリリュー、モロタイに進攻して其の主作戦線が比島に指向せらるること漸次明瞭となるに伴ひ戦備の重點は專ら比島

方面に指向せられたり

2. 敵機動部隊は十月十日其の主力を擧げて我が南西諸島に來襲せり此の攻擊は臺灣沖航空戰及比島作戰と一連の關聯性を有するものにして其の攻擊重點は沖繩本島に指向せられ來襲延機數一千餘攻擊目標は飛行場、港灣、船舶等にして最後に沖繩の首都那覇は燒夷攻擊を受け數時間にして殆ど全燒せり

損害は船舶に於て甚大なりし外死傷軍關係約二百名市民數百名軍需品中、糧食は軍の約一ヶ月分、小銃機銃彈合計約七十萬發、小口徑砲彈約一萬發等の被害あり

敵の來襲目的は比島上陸作戰を容易ならしむるにありたるべく作戰的に見て軍の物質的損害は輕微にして寧ろ我に取りては空襲に對する得難き訓練ともなり又空襲何ものぞの自信力を養成するに至大なる效果ありたり

3. 軍の地上作戰準備は航空作戰準備に約一ヶ月に及ぶ貴重なる時日と努力とを捧げる等のことありしも時日の經過と共に著々進捗せり

即ち洞窟築城陣地は日に鞏固を加へ軍及各兵團の企圖する作戰方針に基く大規模且徹底せる諸演習は續々實施せられて其の效果揚り第二期作戰準備末期に於ては全軍將兵は漸く必勝の信念を抱くに至れり

4. 七月十五日第三十二軍は台灣軍（九月以降に於ては第十方面軍）戰鬪序列に入らしめられ又左の如く軍首腦部の更迭を實施せられたり

軍參謀長 (舊)北川潔水少將 (新)長 勇少將（昭和十九年七月十日）

軍司令官 (舊)渡邊正夫中將 (新)牛島滿中將（昭和十九年八月十日）

5. 南西諸島に對する敵攻略企圖の判斷は作戰準備第一期に於ける敵情判斷八項の算愈々濃厚となれり特に敵がペリリユー、モロタイに進攻せる後に於て然り從つて第三十二軍司令部としては敵の南

西諸島進攻の時機は昭和二十年春季以降と豫期せり

第三節　第三期（天號）作戰準備

一、十月下旬敵が中部比島レイテに進攻するや大本營は捷一號作戰を發令し該方面に決戰を求むるに決し勢ひ他方面に於ける作戰準備は其の性格を異にするに至れり

二、兵力の抽出

十一月一日大本營に對し「第三十二軍より一兵團を抽出し比島方面に轉用することに關し協議致し度き旨十一月三日高級參謀は台北に參集せられたしとの電報あり

右電報に應じ軍高級參謀八原大佐の携行せし軍司令官の意見書の概要左の如し

1. 第三十二軍より一兵團を抽出せらるる場合其の沖縄本島たると宮古島たるとを問はず其の抽出せられたる島嶼の防衛に關しては軍司令官は責任を負ふ能はず

2. 若し必ず一兵團を抽出せらるるとせば宮古島に在る第二十八師團を可とす

3. 若し軍より一兵團を抽出後更に內地若は滿鮮方面より他の兵團を補塡せらるる考なら抽後者を比島方面に轉用し前者は其の儘とするを可とす

4. 大本營が國運を賭し比島方面に於て決戰するに決したる以上今や南西諸島の價値は大ならず寧ろ軍司令官以下軍の主力を以て比島決戰に參加せんことを希望す

台北會議後直ちに大本營は軍より中迫擊第四、第五大隊（十五糎迫擊砲合計二十四門）を抽出して比島に送り軍が必勝の根基とせる軍砲兵隊を以てする猛烈殲滅戰擊の威力に大なる影響を及ぼしたり

右兵力の抽出に引續き遂に大本營は沖縄本島より第九、第二十四師團の中何れかの師團を抽出するに決し其の選定は軍に委任せり軍司令官は十一月十七日大本營命令に基き尤も有力なる最精鋭兵

團を皇軍の決戰場に捧げんとし第九師團を轉用するに決せり

三 新作戰計畫の策定

軍司令官は第九師團の轉用に伴ひ十一月二十五日左の如く沖繩本島に於ける新作戰計畫を決定せり

本計畫は大本營若は方面軍より新情勢に應ずる第三十二軍に對する新作戰企圖若は新任務を示さるることなく軍の基本的任務、軍の保有する兵力竝に國軍全般の作戰上の要求を勘案し軍が自主的に最善を盡さんとする意圖を以て策定せるものなり

沖繩本島に於ける新作戰計畫

方針

軍は一部を以て極力永く伊江島を保持すると共に主力を以て沖繩島南部島尻地區を占領し島尻地區主防禦陣地帶沿岸に於ては敵の上陸を破摧し北方主陣地帶正面に於ては戰略持久を策す敵が北、中飛行場方面に上陸する場合は主力を以て同方面に出擊することあり

指導要領

兵團部署　要圖第二の如し

第三十二軍兵團部署要圖

（自昭和十九年十二月上旬至翌年一月中旬）